

第1回中間報告

(報告期間2017年9月16日～11月15日)

基本情報

派遣クラブ：広島西ロータリークラブ
カウンセラー：加藤 博基 氏
受入ホストクラブ：Rotary Club of Brighton & Hove Soiree
カウンセラー：Chris Wellings

国際ロータリー第2710地区
2017-2018年度グローバル補助金奨学生
藤原周平

報告書提出日：2017年11月15日

E-mail：shujkl@gmail.com
連絡先電話番号：+44 7754 756 824
教育機関・専攻分野：サセックス大学大学院
国際教育と開発専攻（修士課程）
University of Sussex
MA in International Education and Development

目次

1. 留学先について
2. 学業面での成果
3. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流
4. 直面した課題、問題点等
5. 今後の課題、目標
6. その他特記事項

1. 留学先について

私が現在留学しているサセックス大学は、イギリスの南海岸に位置するブライトンという街からバスで20分程のところにあります。South Downsと呼ばれる国立公園内にキャンパスが位置しているため、非常に自然豊かで、日々の生活でウサギ、リスや狐などの野生動物も見られます。私は、キャンパス内の寮に住んでいて、スーパーや飲食店などもあることから、何か特別な予定がない限り、日々の生活がほぼキャンパス内で完結しています。また、大学内の図書館は24時間開いていて、いつでも必要な書籍を探し、学習をする環境が整っているため、非常に嬉しく感じています。



ブライトン海岸沿い



ブライトン街中



私が所属する部門（教育とソーシャルワーク）の建物



大学内の様子



丘から見た大学の様子

2. 学業面での成果

毎週3コマの授業があり、それぞれ、「学術的研究の方法」、「国際教育と開発の理論」及び「国際教育と開発の政策」を学んでいます。1コマ3時間のため、1週間で、計9時間のみの授業ではありますが、事前の読み物が多く、その準備に非常に時間がかかるため、想定していた以上に内容の濃い学びであると感じます。

学習の成果としては、第一に、国際教育と開発の理論について理解を深めることができました。様々な国で実施されている教育政策がどのような理論に基づいて実行されているのかを学び、その重要性を強く認識することができました。今学期の終わりまでの課題として、4000字及び2000字の研究課題が与えられていますが、それらについては、次回の報告書の中で取り扱いたいと思います。第二に、学術的研究の方法である質的研究と量的研究の2つの方法について、理解を深めることができました。本コースの最後に提出する研究論文で、どちらかの手法を採用し、論文を書くことになるので、その第一歩として、非常に良いスタートが切れていると考えています。

3. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

受け入れクラブのカウンセラーであるクリス氏に招かれ、10月5日に初めて、受け入れ先クラブを訪れ、交流し、自己紹介をしてきました。女性の比率が比較的高く驚きました。非常に奉仕活動に熱心なクラブであるとの印象を受けました。また、私の他に、2人のグローバル奨学生がおり、彼女らも同じ大学で学んでいるので、非常に心強く感じています。自己紹介では、私が原爆を投下された広島出身であることから、多くの方々が非常に興味をもって聞いていました。私の親族にも原爆の被害にあった者がいたことなども話しました。グローバル奨学生として、イギリスの受入クラブでこうして話していることに対して、とても神妙な気持ちになりました。今後また、クラブを訪れる機会がありますので、次回の報告書で触れていきたいと思っています。



Robert Griffiths会長と



他グローバル奨学生など
(真ん中奥がカウンセラーのChris Wellings)

4. 直面した課題、問題点等

衣食住に関する問題は、特にありません。服は、街中で安く購入することができますし、食材は、なんでも手に入ります。さらに、住環境については、一時ネズミがキッチンによく現れる状態が続きましたが、問題を報告し、速やかに駆除が行われました。授業が行われる建物まで徒歩で10分程度なので、立地的にも良いです。

一方で、学業面に関しては、課題があります。第一に、英語で行われる授業を十分に聞き取り、理解することに大変苦労しています。出来るだけ授業外の日常生活でも多くの人々と会話し、英語を聴き取る能力を徐々に上げていきたいと考えています。また、授業で理解できなかった内容は、何人かいるクラスメイトと共に、授業後に話し合いの場を設け、理解を深める工夫をしています。第二に、伝えたいことを素早く英語で伝える能力の不足を感じます。授業中、クラスメイトとディスカッションをする機会が多いですが、ネイティブの速さについていけないことが多いです。十分な予習を通して、自身の考えをいつでも発信できるよう準備をしています。ネイティブスピーカーのレベルに達することは難しいですが、そうできるように日々精進します。

5. 今後の課題、目標

何か新しいことに挑戦しようと思い、コース内の生徒委員長に立候補し、当選することができました。その役割を全うするため、教授方との個別の会議や部門別の会議に出席し、生徒の学習環境を改善するための活動を行っています。日本でこのようなリーダーシップを発揮する機会はありませんでしたが、英語圏では初めてなので、日々やりがいを感じています。一方で、クラスメイトが考えていることを教授や学校関係者と共有し、物事を変えていくことに難しさも感じます。部門会議などで、クラスメイトの意見を反映した内容を強く主張し、学びやすい環境を整えていくことを今後の目標としたいと思います。

6. その他特記事項

特にありません。